

JIA の使命コメントメモ

220930・JIA 近畿支部 山本光良

●JIA カーボンニュートラル特別委員会の目的は JIA としての提言

JIA としてどこに向けて何を発信するのか **提言 憲章**

●カーボンニュートラルについて

- ・日本の特性 温帯気候に位置し恵まれた自然環境 寒暖差はあるが多くは温暖な気候  
化石エネルギーは少ない、森林、水、海洋が豊富 国土に広がる整備された農地  
単一国民性 最新技術開発能力 平野の居住地はほぼ都市化整備されている  
これからの社会環境変化（人口減少、安全、レジリエント・・・再サステナブル化）

- ・世界の環境変化（社会環境、経済対立、安全保障、食糧問題、多様化圧力、人口拡大）

- ・日本の特性に合わせたカーボンニュートラルと SDGS の選択を 地域特性の声を上げる  
→日本独自のカーボンニュートラルを発信していくことが世界への貢献となる  
西洋文明由来の SDGS・カーボンニュートラルを日本型に

**\*カーボンニュートラルに関わる 3要素**

以下3つの要素は関連性がある、それぞれ絡み合わせながら将来進化へのプロセスが重要

Iエネルギー源 アクティブ

- ・カーボンニュートラルのエネルギー選択 選択肢があることがリスク回避  
エネルギーは命（世界の経済、政治、技術開発進化と政治リスク）  
多様なエネルギー、自然エネルギー（木、水、太陽光、風、地熱、バイオ）  
化石エネルギー（天然ガス、石油、石炭）原子力エネルギー  
選択肢のある一次エネルギーの利用手段（電気、熱、水素、一次直接燃料）

IIつくる・建設 パッシブ

- ・建設時のカーボンニュートラルへの対応  
省エネの進化 カーボンニュートラル最新技術の採用  
既存ストックカーボンの活用と建設資材のカーボン 工事中の発生カーボン対策  
運用と地域周辺環境へのカーボンニュートラルを踏まえた建設への認識

IIIつかう・運用 ライフスタイル

- ・運用にかかわるカーボンニュートラルへの対応、LCA の前提条件基準化  
省エネ（高断熱化 省エネルギー技術・・・の活用によるカーボンニュートラル）  
生活スタイルの重要性：多様性ではなく選択肢を 価値観よりも思いやりを

いかす、つなぐ・全体の目標値のバランスを取り総合的に考えていくのが建築家、JIA の使命

●すでに経済活動の柱になっているカーボンニュートラルについて

様々な意見はあるが後戻りはできない一歩一歩先へ進むのみ

- ・これから、日本が求められる日本ができるカーボンニュートラルを考えたい  
日本のサステナブル社会を創る大きな要素となるカーボンニュートラル  
同時に世界の地域特性に合わせた持続可能社会サスティナブル化に貢献するカーボンニュートラル
- ・持続可能な社会を目指す理想と現実の揺り戻しを踏まえた中で経済成長社会成長のカーボンニュートラルを進めていく  
社会制度や環境条件が異なる多様な価値観の押し付けよりも思いやりを持って進めていく  
一部の環境破壊や原理主義を主張する多様性の論理ではなく選択肢の自由を持つ共生できる世界をつくるカーボンニュートラルに
- ・一気に解決するカーボンニュートラルではなく少しずつ試行錯誤を繰り返して進めていく  
世界の政治経済環境が変わることに対して柔軟に対応、期限は絶対条件ではない、立ち止まる勇気も必要  
日々開発が進んでいる技術発展に追うところが多い、経済は今ある技術を過去の技術にするが目的は変わらないことを常に認識しながら 2050 年に向けての目的のベクトルとプロセスの社会共通認識が本来の目的からブレナイことを常に確認しながら進めていくことが JIA に求められる

目的はカーボンニュートラルを通じて持続可能な日本をつくり同時に世界に貢献する事

以上